丹鶴叢書

萬代和歌集 七八

117
105
2

東京圖書館
和書門 類 別ね 函 二 架 二 號 一〇五 冊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

萬代和歌集巻第七

神祇哥

故槐原芳樊納本
槐原家蔵

雲葉神

きのふこそ人の若菜と思ひしかいまはかすみの春の山もと

（ん玉）（ナシ一本）

同神

ときの雨のふるをきゝてよめる

こゝろして大ぬさ神もたのむべしいまはかすみの春の山もと

続古今神

かゝる時にもまもりたまへとよめる

（一本）

是ぞ智証大師の御法護持のため
ふ浪さわぐ新羅の神のきこゆや

延喜六年日本紀竟宴歌

菅原春海

あらしの浪のさきもきこえぬ大江ぬしのもゝとせを
元慶六年竟宴歌 (続後撰神)

浪ぢ海の浪のさきてあれ (ナシ 続後) 社こそ
今ぞ

(続後撰神) 芸部て親王 本康

誓田天皇 (ナシ 本 源多)

右大臣

続古今六二井寺
ゆく影屋の神乃
ふるきものとぞん

神楽歌

(続後拾遺神) 住吉の社にまいりて
源道済

(続後撰神) 玉椿さかえてとしをへぬるかな
後二條院住吉社の御書を侍るときに
前中納言行房

(続後撰神) いのりてぞけふのまとゐのあるとやは
お中納言国房

(も続後) 住吉のもとにてよめるをかきあつめて
丹鶴叢書

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

徒古　光俊卿ものせたる住吉社三十首ゐ神祇を

徒後　神祇のうたの中ゐ

徒古今神

ものゝあやをあさきうるゐの汐語よ（一本の）

太神宮よまゝてよゝみ侍る

住吉

住吉ゝ千ゝ言ゝ万ゝ神祇を

卜ゝ

徒後撰神

ゝゝの夫のゝゝもいゝゝゝゝ

百ゝ言ゝ中ゝ

神路山もゝゝゝみゝゝゝゝ

徒後　神祇のうたの中ゐ

同　神祇のうたとうたせたるひうる

後拾遺雑五　選子内親王

こゝろゝゝゝうゝゝの川あゝうゝゝゝゐゝやよゝゝゝゝゝゝゝる

徒後拾　釈ゝゝ　権中納言師時

釈ゝゝ　土佐ゝ

同神

光ゝゝゝ玉ゝのゝゐゝやゝゝけて神のゐゝとも定めてゝゝゝ

後一条院御時かゝる屏風行幸侍る又のまゝふ

選子内親王

後一条院御時かゝる屏風ゝゝゝゝゝゝゝ

続後拾遺神
祢保やいそこのそこ(古後於)ゐ
後法性寺入道前(古)関白
待人をそもちひそてそ
続古今神
ゐるをしるしのそこ(一本続古)
(一本ナシ続古)
正三位経家(知続古)
ことゝとるこゑのさふきもむ(一本より)
久あるそそて
上西門院兵衛
ゐるかいなきぬるの社(一本)
ハいるかなよりけむ

続古 建仁元年五十
そ〻ゐ今〻
神祇のゐ井ふ
下紐亜宿祢
ゐそるの社の神の待ちたまそ
うのはなふまりて
六条宮遠子内親王
神つ乙女ゐそるかひめもゐつまの
待つふまりてこそ小杜の待つをまち
そそ待をそ花本ゐ朱まるを
続古今神
祢そそ見そそ杉もむるよのそふ
まに〻そ
素陽門院兵衛
かそさもそそいそるゐんなをそるまさくまのゐ
同神

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

神祇を
（続拾遺神祇）
いさまさるかものみやの
新羅明神まさ（住れ）
（注一本）
（元一本）
（諸本）
（威一本）
七ノ四

（玉葉神）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

春日祭を
やとめも春ともふけぬてもまつ春の雪こそ降るめ
堀河院時後朝
ささ〻まの神さるふもや夫日山
延喜廿一年亭子院
ほのつ(一本)さ廿一そ
源俊頼朝臣
春日ある三笠のいそ多世をへて
とし祓へくかつるまでに
藤原為房

中納言定頼
いささめのそくもいそうみそ(一本)
法華三昧堂供養
藤原為平朝臣
そこのつゆもあおのそぬきさ科
拾遺抄に任侍時奉使
〳〵行
よみ人しらず
王葉神
いそのかみ(一本)女のうもおもき
石清水歌合
源三位通氏
男山さくらのさ〳〵もちひ

（結ぶる一本）

（日一本）

（た諸本）

（いふふ一本）

続後拾遺神

続後拾遺神

（の一本）

（ふく一本）

続後拾遺神

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2　　ガラス使用

続後撰神

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古今雑下
いつのまにそのみどりまでそめつらむ
ころもでにのみ春雨のふる
ころもて新古

文治女院宮内侍

ふるさとの軒のしのぶもかはらねど
なほ袖ぬらす春雨ぞふる

後法興院

ふるさとの花見る人もなきものを
なほ春風のかをる袖かな

藤原隆信朝臣

かはらじと契りおきてし心さへ
うつろふ色に人ぞ恨みし

徒古今神
そ徒古
藤原俊成卿

思ひきや袖ぬらしつつ忘れ草
しのぶの露を分けむものとは

藤原為家朝臣

新後撰神祇
社頭に詠じ侍りける
ふるき世の心を保
つるかみぞ

徒古 述懐の心を
の中に

玉葉神
おもひなき身にも世をば
すてがたく

徒古今神
雲居にすめる月をかぞ見る

新後撰神
この山ぢをいでじと身をもいのるかな
影うらやまし

玉葉神
人ごころ八玉ゆきもさらぬ秋の
ふるさとをもとふ人ぞなき

徒古
後京極摂政前太政大臣
ながめつつ思ふもさびし
ふるさとの
荒れたる庭の秋の夕暮

玉葉神
おもふことありてすみ侍
りける

玉葉神
思ひおきてし
ことのはを
いかでか秋の
ふるさとの
人にとはまし

徒古今神
後京極摂政前太政大臣
ながめつつ思ふもさびし
ふるさとの
荒れたる庭の秋の夕暮

玉葉神
八玉
おもひなき身にも世をば
すてがたく

徒古
雲居にすめる月をかぞ見る

新後撰神
この山ぢをいでじと身をもいのるかな
影うらやまし

玉葉神
人ごころ八玉ゆきもさらぬ秋の
ふるさとをもとふ人ぞなき

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

玉葉神

藤原定俊

鳥羽院御時

玉葉神

仁俊法師

続後拾遺神

西行法師

七一本

いいつらと一本

続後撰神

祝部成茂

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

おもひその神もまもりありといふ
正治百首
ちるこゝろのまゝ今をかぎりとて
後鳥羽院御製
(保一本)
まことにや縁なき衆生度しかね
ちるをかなしむ心なるらん
続拾遺神
社頭花
社人花をこゝろ
後堀河院御製
ひさかたの光のどけき春の日に
静心なく花の散らむ
千五百番歌合
千とせふる神のみ前に散る花は
春のかたみの雪にぞありける

続古今神祇
かしこくも神の社のゆふだすき
(続古一本同)
二首
後京極摂政
人道を松の風にぞ神もみるらん
祈禱
千五百番歌合
葉ごとに別れし秋の名残とて
なほ散りとまる庭の白菊
結縁経
大ぞらやとゞめし秋もさそふ風
ちるもなごりのまの夢の花
社頭雪
ひさしくも常磐の杜の神さびて
好忠
しるしなき
社頭述懐
ひとすぢに常磐の杜の神ぞとも
なほふりかねて

（続後撰神
神代よりいそのかみふるの
（宗尊親王
（十七ノ一本
まろねするそのよのともめ
洞院摂政家百
（十七ノ一本
久しかるへきの山林寺
兼和大嘗会悠紀方
よみ人しらす
（十七ノ一本
ものゝふのやそうぢかはのあさ

元慶大嘗会悠紀方美濃国風俗
千とせのみのさかえしもなほ古へよりもくさ〴〵そのそなむ
仁和大嘗会悠紀方伊勢国風俗
（続後拾遺賀
年のはのなかきためしをはこやまもかぎりもきんえ二本
永承元年大嘗会悠紀方
弓引大浦資芝
つる君ふかきまつもむかをる雲井の村のまゆみまてゝ
寛治元年大嘗会悠紀方近江国辰日楽急
おく中納言匡房

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

新拾遺賀
ことしよりのふまる榊をのそ
天仁元年大嘗会悠紀主基方神樂歌
部なる山のさるねの榊をとそ
平治元年大嘗会主基方丹波国神樂歌
そかへぬそなその山の榊をいた
刑部卿範兼
神世よりあるにはこのうつしよも
仁安三年大嘗会悠紀方
藤原清輔朝臣

万

続後仁治三年悠紀風俗歌三神山

丑 寛元四年云々

元暦元年大嘗会悠紀方
あり
仁治三年大嘗会（古今賀歌）悠紀方
かくそうたのきみのいはやのいはねとや
正三位季経

続古今賀
くもようそちよの松原おくかけて
已日退出音あり
大蔵卿為長

続後撰賀
ちよの名をのこすこそおほえなん
従上﨟内大嘗会悠紀方
おほ納言経光

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

玉葉賀
ちとせをもくもゐの月日のあきらけき
きみをまつひけふ
いやさきの松

萬代和歌集巻第八

雑教哥

新徴古今釈
梅の木をたる枝ある
けふかまつ
なく
おもひ
玉葉釈
さきそめ
いやさか

続後　天平ホ一ほいこよりのちをみるくどころ付るる遺誡のみ

玉葉釈
あまも皆いとぬらのそる事あるハ天人のまもりとそ仕る人さ侍々

他一本
化縁つきなむとくせ日家作のまをやく
行基菩薩

法華経薬草喩品のこころを
慈覚大師

続後摂釈
かくそ申のやうなる事をくこまかに書ふして仏とをれ

続古今釈
くもりそめにし月のいろ

親音院
同釈
歌のこもをんハ風も

続千載釈
志のふかき事ハ

天台大師忌日ふ
慈恵大僧正

智弁権僧正

続後摂釈
そのこれいあるのをふいのまもりてくる自唐院の杉

千日入堂してくもりてくる
侍る

権僧正心誉

続千　志かふかき事ハ
大僧正行基

同　歌音院
侍る

権僧正勝覚

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

法華経安楽行品
続後拾遺釈
まのあたり一味の妙法をぬきいだして人記品
続拾遺釈
いくそまのあたりみたてまつるとよめるも
法師品
新千載釈
もつなる法をさとりえんをみるをもて
宝塔品
玉葉釈
大空をとぶ鳥もてやすくとりつべしとよめるも
勧持品

衆をおそれてこのことをおもひてとける日そのこと
善学義経のこころまとをとけるも
ほとけこくうのそらにありてまことの
法華経信解品
たとちなのおやはるかにまよひいでたるこをみて
弟子品
人しれぬふかきおこなひをのこをとる(ママ)ふる一本
寿量品
かそふともかそへもやらぬほとけの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

法師品
神力品
続古今釈
続千載釈
法華経
授記品
玉葉釈
薬王品
続後撰釈
勧持品
寿量品

身のそらも仏のそらもおぼえず
信解品
授記品
たなそこに仏のそふたるやうに
薬王品
くそるたのふかるるやうに
勧持品
うつもきえそとそもむるんふ
寿量品

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

続後撰釈
人めよりのうきをやふかくさの内
玉葉釈
出ていりぬ人もとまらぬ柴の戸に
法華経序品のくもゐを
続拾遺釈
ぬきとめ法をもとめ人もとむる続拾
人記品
玉葉釈
あさくさをさすのよもすがらかな
続後撰釈
さやかなる月のみのてらさんく
一本続後
拾遺
抽カ不
選子内親王
続拾法花経序品
未嘗睡眠のくもを
玉釈玄おの中ふ

法華経の歌よみける茅草喩品
成尋法母
もろ〳〵のかなしみなげきいかばかり
久あらそ〳〵釈迦の待覧院坊
玉葉釈
ふりぬるをとゝぬきとめんきる衣
法華経安一不成仏のこゝろを
源義家朝臣
人毎に仏のまことをきゝながら
法華経十七本
法華経をそしる身をなげきて
仏解脱のこゝろを

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

玉葉釈
法のあまつそらまでのぼりてもなほ行のこる人ぞなき

法花経ほ行のことを

おもき罪の迷ふもさきだつてまづ消ゆるのうもふ

土佐の国大里

化一切衆生皆令入仏智そのんを

七條院を御修善

我もとさきだちそよその秋までもなほ露おくの

続後拾遺釈
たぐひなきことのそこまでのぼりつめ

祝部朱仲

寛治元年

法京信縁

仏のおやとおのるもんまでこうしたのまさたる

勧持品を

あまつさへくさぐさのほ法ぬん月沈る峡松の山

提婆品

新続古今釈
仏の影法のむやこをもむるまで

法橋玄昭

妻の品を

続古今釈
くそるんのまで法月ふ

俊恵法師

まんだら

法性のくさぬまでのいろめの月までみまさるん

沈空法師

別当宅嗣使廳結縁経おもりる次

朝一本

経のことを詠まれの二本
寄品名
秋の月の歌のそめどころ
法印宗源 原一本
法生十回忌とぶらひ
のまうけを
法橋頭信
徒後 写とのほとのちの法のこらふもる
一おくくふくを
徒後撰雑中
ことしとてまことのそこのひびき
経廉経仏の一音
真芸上人 貞一本徒後
論義をかける草
法橋頭信
海渡説法衆生

解とふこころを
前伊予守頼
財ふかきふかきこころを
秋ごめ月輪寺
お大伝正雅縁
題不知
三井寺僧
法印良守
いつこの三代のそうもこころを

心經

接住西備因

法身業のことまでせらるる

続古 あまり品於無量ほ中乃至名字不可得ゆゑなどと

以下七首詞書共諸本脱以一本補之

久あひ見ずて方便品のことを

続古今釈

あとゝふもさらねのことをたゞまでいてまねびたる

十如是教ゆゑ相を

後拾遺釈 ゆゑ

報

西治西親

仁和寺二品親王

待賢門院中納言サ八品歌人ゝふよませ侍て

るゝ人記ある

皇太后宮大夫俊

かきつらねき今ゝなるまでよみ侍る時仏舎利を

もてる事とゝ人ゝ

接

続後拾 十如是のことをゆゑ侍る中にふさく

同釈

あさあさかみのことゝある字のもなさゝゆゑ

そひきそのわちむもちはとむ生そうそもそうそる
諸本脱以一本補
佛の涅槃をうへくよう三信る

王葉釈
古へのまのあそをこへおそくんよくもそうそ三信泰光

一切衆生悉有佛性のんと

新古載釈
くそるみことうもおるそみおもうそ仏ほを長多を

深き

続古今釈
仰まもむなさそうあそをぬんまそはるし

無量義経のこころを

続後拾遺釈
かくへのくうまをたる佛のうえ

選

続後撰釈
そうおもたのこける心をめうまあ

維摩経のこころを

小

王葉釈
多そるのちよふ引記くうきそそ多の呆まそみそる

赤ほまつ

打ちそうくるそのをそそぬとうも

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

法華経序品を
ちくもぬるほとゝぎすかな（七本）
秋のころもをまつとなるらん
和多武訳
ふるさとの庵もちかくなるのみか
人記品をよろこぶ
小羽乳母
二十八品等よみ侍る中に化城喩品
を
八条院高倉

続後撰釈
いそのかみたかまつのえのはるさめに（の二本）
後法性寺入道前右大臣の家にて落花
の色即是空と即是色のこゝろを
皇嘉門院別当
もゝしきやなをふる雨のあさぼらけ
四季折節通夜のくさ〴〵を
源季房
らのるふやとふる月の影をみてそこにぬるゝ
梅思生死のこゝろを
中原師季朝臣
いさゝかの世をもとゝいふものゆゑに（も続後）
玉葉釈
いさゝかの世をもとゝいふものゆゑに

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

玉葉釈
[illegible]
[illegible]
歴録稼土のきろを
宗法院法衆
続後撰釈[illegible]
[illegible]
[illegible]

続後拾遺釈
和とのこんそうそうとめともいいまをもんとも
み続後拾

不妄語戒を

なの学そくそうもものしまん

湯杖をそうこ作る

学をそうこのの杖おそいそもしてとたのむへきこと

葉原家経卿

是そのまおなくんそうこのの作まおそうこいまもの

法かる通お授与そ

くようそもおこと好なの月卿とそ

上西門院之御

八ノ十二

十訓抄 前大納言忠家卿

後京極摂政殿

ふるのおの通を法をそ科心学のまをみまつまま

修行し作る時

よはふこのちことをもこと

法かるのそそめる花これ(こと)一本之世の作

るまま好作るそうこの花を作を

ようなる

胡そこいをおつるそ春をそ

来たるまつる

一本(こうこ)

丹鶴叢書

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

くそる物かもをもふ
権中納言定家の
二條太皇太后宮
いのる神そぬさをらふ
らるてもつまの陸をもく
今のまこもの二本
大こねつく
谷のかけそこもとそ
影うつる

ふるの野の高井の水をむすひ
我不愛身命
但惜無上道
芸改と人
ほつるこゝろのまことをふいくたひかうまれきてもつかへたてまつらんと
よみ侍る歌の中に
和泉式部
をそろする雲こそうらめ
ふるさとを月のみもるとおもふらん
おもふ心の今をこそしく
法印長雅母

新後拾遺釈

このもとに出で月もめぐりてい
むかの後月いまもかはらけをおよめる
言のはのまことあめなる後原院信西を
きとともむきあてゆくへ法師光つぐ仏ふ
のをきて
きるらくをきを海のくをれ没さん思ふ毎
さすがも母望まるもねかのことを拾宝と
さく供ささけるを等師ままでも又のおふ
後法皇もたたものひつきる

続拾遺雑下

こんのかともあるまで十寸続
をまるまく逆流し
まく沼ちる時たる
なるか
信正永縁
入唐せんと待ちける
むとひる人のもとう

新続古今釈

ここひおいて法やまでこ
ここ

同釈

こんまるほを続こうこを
入唐せんと待ちける
むとひる人のもとう

法京法宝憲

続ぬき

諸本新続古

丹鶴叢書

117
105
2

新十 入之の内ある

新千載旅

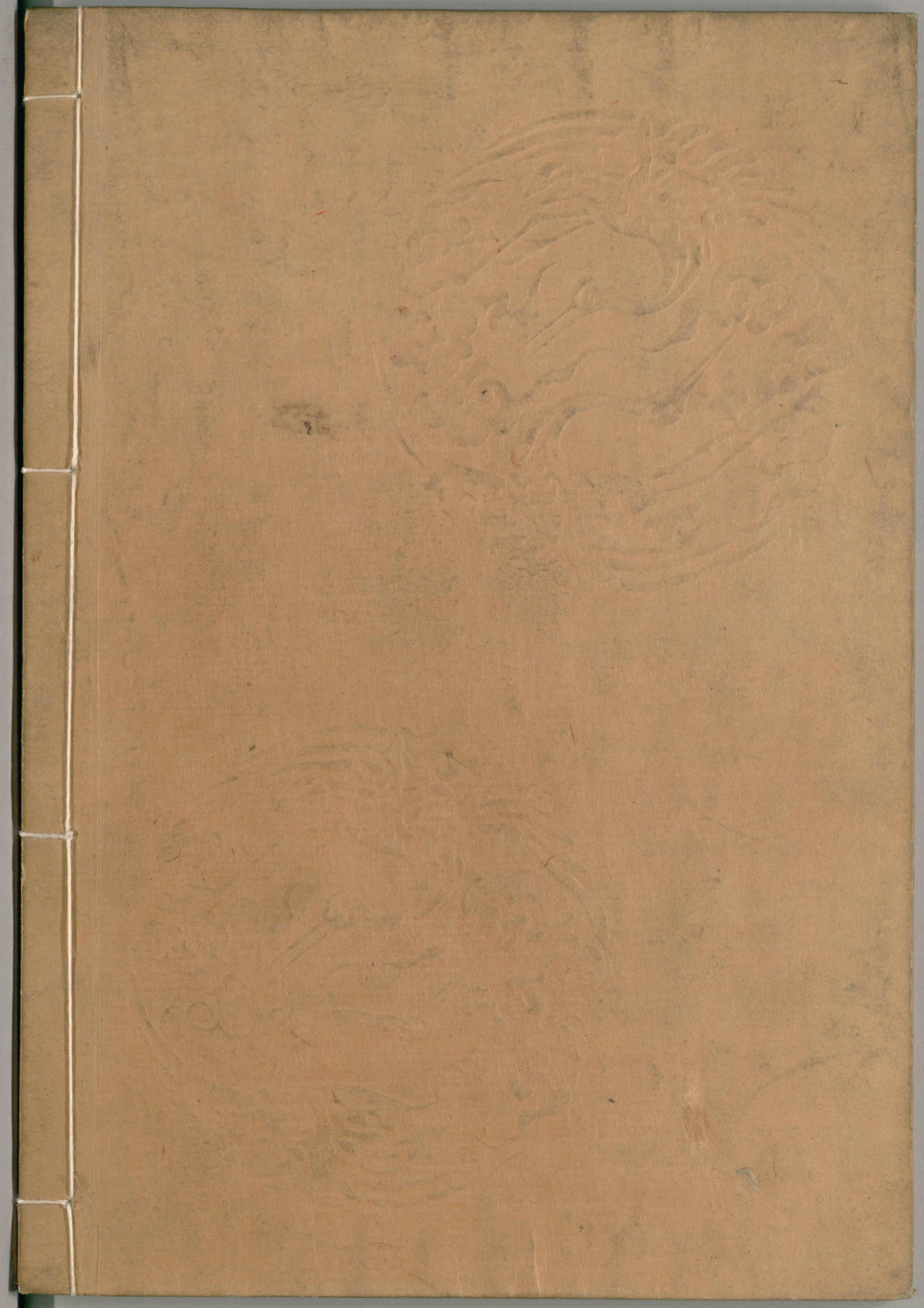
さゝ浪の春さとなるき浪をいこのつゝみ(小諸本)

浪海のそこくよりみなぎる

浪とゝもそゝやつる法の舟もる

人の跡とゝまる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用